

■堀口捨己 建築家。東大同期の、様式建築否定の{分離派}結成を主導、後には、伝統文化とモダニズム建築の統合を図る。

ほりぐちすてみ

日清戦争終・1895＝ 岐阜県本巣郡席田村で、大地主堀口泰一・けいの五男に生まれる。

日露戦争始・1904＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝10歳：

明治天皇没・1912＝17歳：

大正政変・1913＝18歳：

第一次大戦始1914＝19歳：

21ヶ条要求・1915＝20歳：

ロシア革命・1917＝22歳：

本格政党内閣1918＝23歳：

ベルリン条約・1919＝24歳：

大暴落・・・1920＝25歳：

岐阜中学校を卒業し、第六高等学校第二部甲類に入学。卒業して、**「東京帝国大学建築学科に進む。この頃から、短歌を始める。」**

**\*卒業設計は、ユニークな形態をした「精神的なる文明を来たらしめんために集る人々の中心建築」。当時としては珍しく大学院に進み、近代建築史を専攻。{分離派建築会}の結成を主導し、設立とともに「分離派建築会作品」に、論考「建築に対する私の感想と態度」を発表して、早くも、論客ぶりを発揮。この作品集から岩波書店・岩波茂雄との関係が始まり、彼を介して、文人たちとの交流も広がって行く。**

原敬首相暗殺1921＝26歳：

第二回分離派建築会作品展覧会、以後、七回まで開かれる。**「中退して、平和記念東京博覧会公営課技術員となり、交通館・航空館、動力館・機械館、電気工業館、鉱産館・林業館を設計。」**

水平社結成・1922＝27歳：

平和記念東京博覧会開催に池塔設計。大学に戻り、堀越三郎助教授の助手を務める。

関東大震災・1923＝28歳：

鈴木寿々と結婚。翌年にかけて、**「私費でヨーロッパを旅行し、**

護憲三派圧勝1924＝29歳：

清水組技師になる。岩波から「現代オランダ建築」出版以降、著作次々。

治安維持法・1925＝30歳：

**「黒田邸宝庫」\*「小出邸(江戸東京たても園に移築されている)」以降、傑作始り、**

円本時代始・1926＝31歳：

第一銀行技師に転職するも、**「名作とされる「紫烟荘(現存せず)」、**

金融恐慌・1927＝32歳：

続かずに辞めて、設計事務所を自営。第六回分離派建築会作品展覧会。「紫烟荘図集」出版。「双鐘居」、

共産党事件・1928＝33歳：

**「住宅双鐘居」出版。「牧田ビル」。「兄が气象台関係の要職を務めていたことから、**

世界恐慌・・・1929＝34歳：

**「神戸海洋气象台新館(現存せず)」以降、気象観測施設的设计も多くなる。**

海軍軍縮条約1930＝35歳：

「一混泥土住宅図集」出版。「徳川邸」「吉川邸(現存せず)」、

満州事変・・・1931＝36歳：

「九州气象台」「森平兵衛邸洋室」、

五一五事件・1932＝37歳：

**「塚本邸」。ようやく帝国美術学校(武蔵野美術大学)教授になるも、それに専念するわけではなく、**「一住宅と其庭園」を出版し、日本の建築と庭園を「空間構成」としてとらえ、庭園に関する資料収集を開始、****

**「中央气象台品川測候所(現存せず)」「岡田邸(現存せず)」、**

国際連盟脱退1933＝38歳：

「永井邸」、

帝人疑獄事件1934＝39歳：

**「飯塚測候所」「荒尾邸」「厳格なモダニズム建築の「水戸地方气象台(水戸測候所)」、**

芥川直木賞始1935＝40歳：

**「茶室の思想的背景と其構成」出版。「岡田邸」「中西邸」「災害科学研究所」。黒田清会長との{日本工作文化連盟}を設立に参加し、理事。**

日中戦争始・1937＝42歳：

「取手競馬場」「内藤邸」「聴禽寮」、

健保+総動員 1938＝43歳：

帝国美術学校を辞め、東京女子高等師範学校講師。「山川邸」「海洋气象台」**傑作「大島測候所(現存せず)」、**

第二次大戦始1939＝44歳：

**「モダニズム住宅の傑作とされる「若狭邸(現存せず)」、**

大政翼賛会・1940＝45歳：

「西郷邸」。**\*雑誌{思想}に評論「利休の茶」掲載し北村透谷賞、著作も一流で、和風建築設計の礎になった。**

・・・・・・・・1942＝47歳：

「美術研究」に、「君台観左右帳記の建築的研究 室町時代の書院及茶室考」連載し、

年金+総武装 1944＝49歳：

**「書院造と数寄屋の研究」で、工学博士、**

敗戦・・・・・・・・1945＝50歳：

東京女子高等師範学校講師を退職し、母校東京帝国大学建築学科講師になる。{日本陶磁協会}理事。**「モダニズム感覚あふれる「岩波茂雄墓(鎌倉)」、**

新憲法公布・1946＝51歳：

文化財保護専門委員。「草庭」出版、

極東裁判決・1948＝53歳：

長野県茅野市の「尖石遺跡復元住居」。

三大事件・1949＝54歳：

**「明治大学教授。」「利休の茶室」が出版され、**

朝鮮戦争始 1950＝55歳：

**「日本建築学会賞(論文賞)。名古屋「八勝館みゆきの間」は、論理性と現代性を重視した「強い表現」で、**

独立回復・・・1951＝56歳：

「美似居(現存せず)」「日吉ヶ丘高校(木造校舎)」。**「日本建築学会賞(作品賞)」、**

メー-事件・1952＝57歳：

「明治大学聖橋校舎」「大河内家共同墓所」。**「桂離宮」を出版し、**

TV放送始・1953＝58歳：

翌々年にかけて、東大大学院講師。翌年にかけて、明治大学工学部長。「八勝館湯殿」。**「毎日出版文化賞。」**

自衛隊発足・1954＝59歳：

「光悦巴庭によるヴァリエーションの中庭」「扶桑相互銀行岡山支店」、

55年体制始 1955＝60歳：

「サンパウロ日本館」「明治大学駿河台大教室・8号館」、湯河原の「万葉公園と万葉館および万葉亭」、三朝温泉旅館後楽「料亭植むら」、**「和辻哲郎墓(鎌倉)」もまた、シンプルな作品である。**

国連加盟・・・1956＝61歳：

自邸「大森の小住宅(現存せず)」「明治大学和泉体育館」、日本陶磁協会主催の「元・明名品展」会場構成と立礼茶席、「鶴澤総明墓」、

なべ底不況・1957＝62歳：

「岩波邸」「静岡雙葉学園講堂」「日吉ヶ丘高校(RC校舎)。文化財審議会専門委員。**「日本芸術院賞、**

インサト-妃・1958＝63歳：

「八勝館音聞ゴルフクラブ」「明治大学駿河台大6号館・7号館」**和室の傑作「八勝館さくらの間・さくらの間」、**

美智子妃・1959＝64歳：

「一条忠親山荘移築工事監修」「明治大学駿河台図書館」、

安保闘争・1960＝65歳：

**「明治大学では、斜路がファサードの「和泉第二校舎(大教室)・学生会館」を代表に、多くの校舎等を設計。**

タイタイ病始 1961＝66歳：

**「伊奈製陶(INAXからLIXIL)創業者伊奈長三郎の寄付による「常滑市陶芸研究所」も、鉄筋コンクリート造ながら、和室と同様の、論理性と現代性を重視した「強い表現」になっている。**

全国総合計画1962＝67歳：

「静岡サンモール修道会・礼拝堂」。神代雄一郎と共に、外国人向け「Tradition of Japanese Garden」を、

TV宇宙中継始1963＝68歳：

**「数寄屋建築の研究と設計で、紫綬褒章。全集「茶室おこし絵図集」刊行開始、**

東京リビ-ック 1964＝69歳：

「白川邸」「静岡雙葉学園普通教室棟」「明治大学生田校舎1号館・4号館」、

大学紛争始・1965＝70歳：

「明治大学生田校舎2号館・3号館・斜路」などを遺して、明治大学を定年退職し、講師。神奈川大学工学部建築学科教授。以後は、早川

いざなぎ景気1966＝71歳：

正夫建築設計事務所と共同で設計。**「和室の傑作「かん(石へんに間)居」**

「福岡雙葉学園体育館・小学校舎」。**「長年の庭園研究の集大成「庭と空間構成の伝統」を出版。新年歌会始の召人。勲三等瑞宝章。**

美濃部都知事1967＝72歳：

「建物と茶の湯の研究」出版。「大原山荘」、

震ヶ関ビル 1968＝73歳：

「茶室研究」出版。犬山市の如庵移築・元庵復元・庭園設計した「有楽苑」。**「日本建築学会大賞。」**

全共闘ビ-ック 1969＝74歳：

「建築史」出版。佐賀の「清恵庵」。神奈川大学も退職し、

大阪万博・・・1970＝75歳：

「現代日本建築家全集4・堀口捨己」が刊行される。

ドルショック・・・1971＝76歳：

石油ショック1973＝78歳：

**「自らの作品集のタイトルを「家と庭の空間構成」として出版。**

クアンブル事件1975＝80歳：

「建築論叢」「書院造りと数寄屋造りの研究」出版、

田中角栄逮捕1976＝81歳：

**「歌人としての集大成となる「堀口捨己歌集」を出版して、**

成田衝突・・・1978＝83歳：

「黄金の茶室復元監修」、

貿易摩擦問題1980＝85歳：

**「没した。」**

・・・・・・・・1981＝86歳：

本人の意向により、その事実は公にされず、{堀口捨己生誕100周年記念行事}の際に初めて公にされた。

・・・・・・・・1984＝89歳：